

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 穴生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

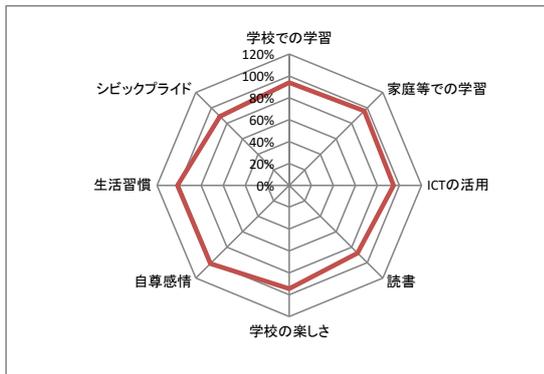
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○「話すこと・聞くこと」に関して、目的や場面に応じた対応をしたり、目的に沿った自分の考え方をまとめたりすることはできている。しかし、読み手の立場に立って文章を整えたり、自分の考えの根拠を明確にして書いたりする「書くこと」に関しては、苦手傾向にある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。 ○インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。	
	努力が必要な問題	○漢字を書く ○二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する。	
数学	全体的な傾向や特徴など	○「数と式」では、特に全国平均を上回っていて、日頃の家庭学習への取組の成果が表れている。「図形」では、条件を変えた場合にどうなるかなど、文章をよく読み、内容をしっかりとらえていく力が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○数と数式の乗法の計算をする。 ○四分位範囲を求める。	
	努力が必要な問題	○累積度数の意味を理解する。 ○反比例の意味を理解して、正しい記述を選ぶ。	
英語	全体的な傾向や特徴など	○日常的な話題について、情報を大まかに捉えて聞き取ったり、読み取ったりする力は比較ある。一方で必要な情報や、自分の考えを整理して、まとまった文を書いたり、話したり、やり取りしたりする力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 ○ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する。	
	努力が必要な問題	○与えられた英文を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして会話が成り立つように英文を完成させる。 ○環境問題のプレゼンを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○学校での学習については、自分の考えをまとめる活動は全国平均を上回っているが、それを伝えることに関しては、資料や文章、話の組立てなどを工夫して伝えることがうまくできていないと思っており、自己満足感が低い傾向にある。
○「自分にはよいところがあると思う」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」が全国平均を上回っており、自己肯定感や生活習慣は高い傾向にある。
○「読書」に関する項目については引き続き文化委員会と連携し、読書活動の推進を図っていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○国語 日常生活において必要な語彙力の向上を目指す常行を積極的に行い、根拠を明確にした文章に触れる機会を多く取り入れる。
○数学 基礎・基本の徹底を図りながら、日頃の授業において、「なぜそうなるのか」「このときはどうなるのか」と思考力を鍛える発問を多く取り入れる。
○英語 基礎・基本的な英語のインプット学習と、場面設定や状況に応じた自分の考えや気持ちをアウトプットする機会を授業に多く取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学習に対しては、主体的に取り組むことができるようになったことが分かった。しかし、学力につながっていない教科がある。能力的には高いものを持っているので、教科部会や学力向上部会において具体的な授業改善策や家庭学習のポイント提示などを図っていく。
○ドリルアプリ（タブレット端末）を家庭においても活用し、家庭学習の定着を図っていく。